

令和3年度 公益財団法人焼津市振興公社事業報告

1. 総括事項

公益財団法人焼津市振興公社は、定款第3条の目的を達成するため、令和3年度において、概ね次のような事業を行いました。前年度同様に新型コロナウイルス感染症の影響を多大に受け、一部中止又は延期になる事業もありましたが、感染症対策ガイドラインを遵守し、入口での検温、手指消毒及び換気の徹底、ソーシャルディスタンス確保等感染対策を行いながら、可能な範囲で開催できる事業を選定し、実施しました。

(1) 地域文化の振興（公益目的事業）

焼津文化会館及び大井川文化会館ミュージコでは、指定管理業務受託3年度目を迎え、市文化振興計画に基づき、国内外の優れた芸術文化の鑑賞機会を広く市民に提供するとともに、市民の芸術文化活動を支援するため芸術文化事業を鑑賞型、市民参加型、普及・協働型と位置づけ、バランスよく実施しました。

事業の実施については、市民の要求と経済性を考慮した上で良質な事業を企画しました。新型コロナウイルスの影響で、11本の事業を中止としましたが、他の団体・機関との共催を含め55本（焼津32本・大井川23本）の芸術文化事業を行い、多くの市民の鑑賞・協力・参加を得て、好評を博しました。個別事業内容については、焼津文化会館分27～29ページ、大井川文化会館ミュージコ分は33～34ページに記載いたしました。

芸術文化事業の公演情報を広く周知するため、焼津文化会館・大井川文化会館ミュージコ統一情報紙「いべにゆ」を志太・榛原地区を中心に新聞折込にて毎月1回発行しました。

1 鑑賞型

優れたアーティストによるクラシック、芸能・演芸、ポピュラーなど多彩な事業を展開しました。

クラシックでは、「岡本誠司&反田恭平デュオ・リサイタル」「岡本知高 Concerto del Sopranoista」、芸能・演芸では、「DRUM TAO」「漫才のDENDO」等を開催しました。

ポピュラーでは、「渡辺美里コンサート」「森高千里コンサート」「財津和夫コンサート」等を開催しました。

2 市民参加型

市民の文化活動の促進と地域文化の活性化を図るため、ワークショップや市民自らが公演に参加・出演する事業を展開しました。

「ワンワンわんだーらんど」「憧れのステージでピアノを弾こう！」「初めてのマジック教室 in 焼津」等や昨年度新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった「ミュージコ吹奏楽フェスティバル」と「ミュージコピアノマラソン」を2年ぶりに開催したほか、ボランティア団体サポートクラブの協力による「ロビーコンサート」も開催しました。

3 普及・協働型

普及を目的に無料又は低価格の講座、公演など市民に広く芸術文化に親しんでいただく事業を展開しました。

講習・研修では、『落語』がオモシロいのはなぜだろう？」「白石光隆ピアノ・リサイタル」等を開催しました。

ポピュラーでは、「ママとパパも一緒に初めてのコンサート」「市内保育園・福祉施設アウトリーチ コンサート」等を開催しました。

天文科学館においては、利用者に充実した科学教育の機会を提供し、天文や科学に対する興味・関心を高めることを心掛けた事業展開に努めました。また、市制 70 周年を記念した事業も実施しました。個別の事業内容については、38～40 ページに記載いたしました。

1 学校連携事業

利用団体（小中学校）の希望を受け、科学工作を体験できる「わくわくワークショップ」4 件、学校の希望に応じた出張講座を 20 件実施したほか、総合学習 17 件 190 人を受け入れました。また、「宇宙の日」記念行事全国小・中学生作文絵画コンテスト（絵画の部）では、416 点の応募があり、科学館表彰式並びに応募作品の展示を行いました。

2 児童生徒への理科学習支援事業

結成 5 年目となる「日本宇宙少年団焼津分団」は、13 人の団員により年間 10 回の活動を行いました。また、感染症の影響により昨年度中止にした、毎年恒例の「小学生のための星空教室」と「夏休みの理科自由研究相談会」は 2 年ぶりに開催し、児童生徒の理科学習を支援しました。また「子ども宇宙教室」は開催直前に緊急事態宣言が発令されたため、オンラインに変更して実施しました。

学習指導要領改訂に合わせ、小学校を対象に小型ロボット及び教材の貸出しを行い、プログラミング教育の普及に努めました。

3 年目となる静岡大学との共催事業「静岡 STEM アカデミー in 焼津」は、引き続き科学・技術・工学・数学を軸として、科学教室の実施や自由研究のサポートを行いました。

3 生涯学習支援事業

5 年目を迎えた星空案内人資格認定講座「大人のための天文教室+（プラス）」では、1 人の星空案内人と 16 人の準案内人を認定しました。また、月探査やこれからの国際的な宇宙開発についてをテーマにした「天文科学講演会」は、感染症拡大のため、リモートに変更して開催しました。

4 天文台事業

今年起こった「皆既月食」、「部分月食」、「金星食」などの珍しい天文現象を YouTube を使ってライブ配信を行い、大変多くの視聴回数を得ました。また、感染拡大のため中止した特別観望会についてもライブ配信を実施し、市民の興味・関心に応えることに努めました。毎週土日の夜の星空観望会では、緊急事態宣言が出された 9 月は休止しましたが、感染防止の

ために参加人数を制限しながら開催の機会を作るように努め、参加者は昨年度を上回りました。

5 プラネタリウム事業

「生解説プラネタリウム」では、ブラックホールについて現在わかっていることや未だに解明されていない謎を紹介する「素朴なギモンに答えます ブラックホール」や8年ぶりに見ごろを迎えるペルセウス座流星群について、その仕組みや見え方を紹介する「星に願いを！流星群を見てみよう」など4本の番組を投影しました。また、高精細CG投影機を活用した「季節の特別番組」では、学校長期休業期間や土日祝日に子供たちに人気のアニメ番組などを投影するとともに、大人を対象とした「CGドームシアター・ヒーリング」では、幻想的なCGで表現した、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」を投影して好評を得ました。

さらに、「中垣哲也オーロラトークライブ」やプラネタリウム音楽会「スターライト・クリスマス 星空に響く二胡の調べ Vol. 7」などの特別投影により、様々な切り口から天文に触れる機会の提供に努めました。「団体投影」では、新型コロナウイルスの影響で学校団体を中心にキャンセルが相次ぎましたが、都心等への宿泊を回避した修学旅行による学校利用が増加し、最終的には昨年度を上回りました。

6 展示・体験室事業

期間を定め、テーマを変えて「かくれた動物を探しだせ！探検☆どうぶつランド」、「撮りまくれ！びっくり写真 トリックワールド」、「大潜入！スパイ作戦 盗まれたクリスタルを取りもどせ！」、「グレイ博士の挑戦状 へんてこ研究所から脱出せよ！」の4本の特別展を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、土日祝日及び繁忙期は、昨年度に引き続き1時間ごとの入替制で実施しました。

7 情報発信事業

情報紙「DISCOVERY」を年4回発行し、市内及び近隣市町の全小学生等に配布しました。また、季節ごとに制作するプラネタリウムパンフレットには、投影する番組や星図を掲載し、わかり易さと内容の充実を図りました。

さらに、テレビやラジオの出演や新聞雑誌等の取材には積極的に対応し、ホームページ、ツイッター、インスタグラム、フェイスブックにより、運営情報や天文科学情報、そして天文現象のライブ中継などの発信にも努めました。

(2) 公の施設等の管理運営の受託（公益目的事業、収益事業）

焼津市の文化芸術の拠点施設である文化センターの施設管理と焼津、大井川両文化会館の運営、天文科学館の管理運営、ディスカバリーパーク焼津内の公園・広場の維持管理を受託しました。

両文化会館及び天文科学館の施設運営につきましては、市民の様々な要求と期待に添うことができるよう、複合施設としての機能を生かすとともに、コロナ禍にあっても弾力的、効果的な運営に努めました。年間利用者は、焼津文化会館では104,367人、大井川文化会館

では、30,711人、天文科学館では、82,042人となり、三館とも大きく減少した昨年度から増加しました。

館別利用者数については、焼津文化会館が30～32ページ、大井川文化会館が35～37ページ、天文科学館が41～42ページに記載いたしました。

ディスカバリーパーク焼津の公園においては、樹木・芝の定期的な手入れや、公園清掃を実施しました。また、中央駐車場においては、冠水抑制のための集水桝設置や劣化した案内看板の修繕などを行いました。

(3) 物品販売事業（収益事業）

公社の安定財源確保のため、管理施設内の自動販売機による飲料等の販売及び天文科学館の売店にて天文グッズ等の販売を実施しました。

自動販売機については、屋内外に設置することで来館者の利便性向上を図りました。

また、天文科学館の売店については、特別展等のタイアップ商品をはじめ、星座早見や組み立て望遠鏡、実験キットなど天文・科学への興味を喚起する商品や学習に役立つ書籍等を取り扱うことで事業との相乗効果を図りました。昨年度より利用者が増えたため、売上も増加しました。

<附属明細書の作成について>

令和3年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しておりません。